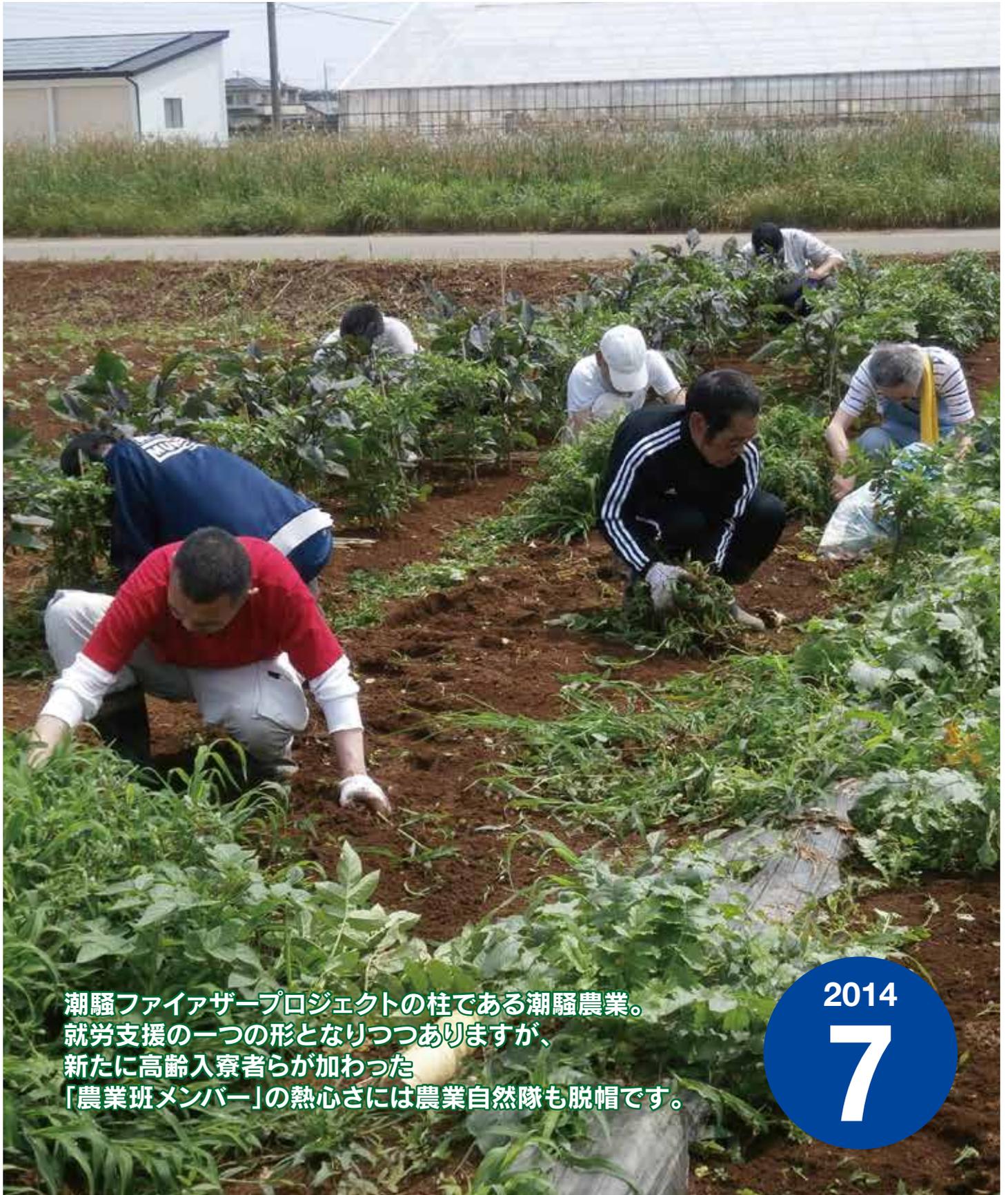


どっこい生きてます!



潮騒ファイザープロジェクトの柱である潮騒農業。
就労支援の一つの形となりつつありますが、
新たに高齢入寮者らが加わった
「農業班メンバー」の熱心さには農業自然隊も脱帽です。

2014

7

依存症である限り 支援を惜しまない

～脱法ドラッグ問題に思う



梅雨が明けて夏本番の厳しい暑さとなりました。皆様、体調など崩していませんか。人生も晩年に差し掛かった私です。体力や気力の衰えは否めません。最近は記憶の衰えが激しく、ノートが手放せません。メモ魔のように些細な事でも書き記したり、スマホでスケジュール管理をしていますが、記録したこと自体を忘れることもままあります。とにかく目の前で話している相手の名前が思い出せないことが多くなりました。頭の中では「あの人だ」と分かっているのに、名前が出て来ないのです。挨拶したり、会話を進めるのに困ってしまいます。

それはさておき、世間では脱法ドラッグによる事件事故が大きな社会問題になっています。専門の研究者はもちろん長く覚醒剤に依存してきた私から見ても、その危険性や怖さは理解を超えるものがあります。使用後の薬理症状はまったく不明で、まるで一時の酔いと引き換えに自らを薬物の人体実験に捧げているようなものです。このところ潮騒でも脱法ドラッグ依存の入寮者が増えましたが、彼らは「壊れ方」がひどく回復の困難さを実感させられています。ここまで汚染が拡大したのは、「脱法ハーブ」としてきた無神経なメディアの報道姿勢も影響しています。これによるハーブ店などへの弊害は計り知れないようです。（その後、国は脱法ドラッグを「危険ドラッグ」の呼び名に決めました。）

脱法ドラッグ問題は当事者の自傷行為にとどまらず、即効的に「狂い出す」ことから車を運転しての重大事故につながり、たやすく他害や「殺人」となる悲惨なケースが増えています。ここにきて国も規制の網を強化しましたが、これだけメディアでしつこく報道されても、安価で入手しやすく、すぐに「酔える」ためか若者への汚染が収束する気配は感じられません。むしろ規制が強まれば潜在化して、より巧みに形を変えて蔓延していくでしょう。もちろん取り締まりの強化は大事ですし、国民的な啓発や乱用防止運動には力を入れなければなりません。でも、体験的に言わせてもらえば、どんなに頑張っても人間社会において違法薬物はなくなる、との思いが私にはあります。それは違法薬物には政治や民族、宗教、文化、経済格差、貧困、習俗、戦争…など国境を超える複雑な背景が絡んでいるからです。誤解を恐れずに言えば、人間の精神に潜む深い闇、不可思議な部分がなくなるのと同じです。ましてや動かしがたい現実が重くのしかかり、孤独感や閉塞感から逃避したいとの思いが強い現代のストレス社会では、なおのこと手っ取り早く「酔い」を求める志向性は強まるばかりに、私には映ります。

でも、そうなるこの国には夢も希望もなくなってしまいます。司法機関には取り締まりに力を入れてもらうとして、私たちの立場は脱法であれ合法・非合法であれ、薬物に依存した人たちの回復を支援し続けることがすべてです。前科があろうがなかろうが、あるいは社会的な立場や前職がどうであれ、「助けてほしい」と潮騒JTCの門戸を叩いた人は基本的に仲間です。私は少しでも彼らの回復の可能性を信じて、できうる限りの支援を惜しみません。

（センター長 栗原 豊）

ファイザープロジェクト 推進委員会



潮騒JTCが取り組む「潮騒ファイザープロジェクト」（正式事業名「薬物・アルコール依存症者の自立支援および就労プログラム開発モデル事業」）の進行状況を報告し、主に行政関係者から助言を頂く潮騒ファイザープロジェクト推進委員会が7月2日、鹿嶋市宮中の潮騒イケア会議室で開かれました。

大手製薬企業ファイザー社からの継続支援を受け、

将来ビジョンに「生活保護受給者から納税者へ」の高い志を掲げた意欲的な試みで、今年が最終年（連続3年目）です。冒頭あいさつで栗原センター長から「試行錯誤しながらも、ほぼ計画通り進行している」との報告がありました。

会議ではプロジェクト担当者から全体説明があり、後半計画が示されました。潮騒農業リーダーからは今年前半の取り組みが報告され、農業自然隊メンバーが体験発表をしました。委員の皆さんからは「地域社会の雇用環境は厳しいが、この経験を生かして就労へのチャレンジを続けてほしい」「過去の職歴経験や免許、資格を生かして再挑戦することに新たな可能性をみる」などの意見を頂きました。今年は事業の完結年度として潮騒農業を就労支援の一つの形に集大成させ、生産した農産物をできる限り販売にまでつなげ、少額だとしても収益を生み出したい考えです。

なお、推進委員会はこれまで前期・後期2回の開催をしてきましたが、まとめとなる12月は年末の繁忙期と重なることから、特に行政関係の皆様のご出席が難しいことを踏まえ、最終年の今年は今回1回限りの開催とさせて頂きます。全体的な総括については12月7日の潮騒9周年フォーラムと、年末に発行する報告書でご確認を頂きたいと存じます。

仲間の体験発表に「結果」の本当の意味を知る

潮騒ファイザープロジェクトも今年で助成最終年度とあって、結果を出さないといけないというプレッシャーを感じながら毎日、農業隊の仲間たちと野菜作り、米作り、土壌作り、さらには作業プログラムに意欲的に取り組んでいます。でも、私は今回、推進委員会で発言してくれた仲間の体験談を聞いて、表面的な意味での「結果」を出すことにとられ過ぎていて深く反省させられました。

このメンバーは昨年、スリッパを繰り返し、周囲から「どうにもならない」「回復は難しい」と言われ続けていました。その彼が今、クリーン7カ月にまで実績を積み上げています。我が農業隊に参加して自然と触れ合い、偉大な自然の恵みを体で感じるようになり、生き物を慈しむまでに自分を成長させています。以前の険しい顔つきが、穏やかで優しい表情に変わりました。スピーチをしてい

るその姿に、彼の「変化」＝「回復」を気づかされました。こうした内面の気づきや霊的な成長こそがお金には変えられない「結果」だと思い知りました。これこそが潮騒ファイザープロジェクトとして位置づけられていた「自立」や「就労支援」の背後にある「回復」の一つの姿だと改めて気づかされました。「ああ、コレなんだ!」と実感できた瞬間でした。

お陰様で潮騒農業は支援者も徐々に増えて、いろいろな人たちに支えられ、地元にも浸透しつつあります。少しずつですが、仲間達の「団結力」や「きずな」が強まり、どうやら潮騒農業の「形」が見えてきそうな感じです。助成期間は今年で終わりですが、あと半年間も同じように頑張つて基礎体力をつけていきます。貴重な気づきをもらった最後のファイザー推進委員会でした。（ヒトシ）

ファイザープロジェクト 就労支援実践講座

依存症回復に向けた動機付けで貴重なヒント

～太鼓指導に情熱を注ぐ島田正之さん



▲最後には潮騒の太鼓メンバーも勢揃い

まだまだ世間では認知されない依存症の世界ですが、地域には活動分野こそ違うものの依存症の回復にヒントを与える活動をしている逸材がいます。現在、潮騒 JTC の和太鼓演奏を指導してくれている「鹿島灘太鼓」代表の島田正之さんが、まさにその人です。島田さんは7月18日午後、今年が助成最終年の「潮騒ファイザープロジェクト」の就労支援実践講座（会場・鹿嶋市まちづくり市民センター）で講師を務めてくれました。島田さんの話には、太鼓人生を通して「人を信じ、育てるとは何か」の深い問い掛けがありました。社会からはじかれ、うとまれるヤク中、アル中の入寮者に生きる意味と希望、そして勇気を与えてくれた珠玉の講演でした。

屈折した生徒の琴線に触れる 信頼関係を築く

この日の講演で、島田さんは主に県立鹿島灘高校での和太鼓指導体験について話してくれました。

制度改編を機に同校の世評を高めようと、学校活性化の切り札として生まれた和太鼓部でしたが、生徒集めに苦勞して「5回連続して誰も来ない」ことがあったそうです。何とか集まった生徒たちは複雑な家庭環境を背景に、それぞれ困難な問題を抱えていました。

でも、島田さんには「やれる」という目算がありました。というのもご自身が子供の頃からやんちゃで、脇道にそれた子の心情をよく理解できたからです。だから世間からすれば箸にも棒にもかからない子供たちが好きで、「食いついてきたら強い」と思いました。彼らは小さい頃から周囲から否定され、ゆがんだプライドだけは強いものの、本心では心が弱く、自信を失っています。それはヤク中やアル中の人生にも通じます。でも、心根は優しく、人

倍コミュニケーションに飢えており、自分を認めてほしいのです。

島田さんは、そうした屈折した生徒の琴線に触れる関わりで次第に深い信頼関係を築き、はたからは厳し過ぎるとも思える熱心な指導で、生徒たちの太鼓の実力をアップさせました。全国大会初出場の時は本番前に震えている生徒たちに、「心は素直なんだ」と改めて感じました。入賞はできませんでしたが、審査員からは「プロの打ち方」との評価を頂きました。厳しい練習についてきた生徒たちは、本音で叱ってくれる人を求めているのです。島田さんはこの時、練習で手を上げた意味をきちんと説明し、「教えた事に間違いはない」「来年の全国大会では上位を狙える」と確信したそうです。

全国大会で準優勝(2位)の 栄誉の時には涙が

島田さんの活動は太鼓の指導だけではありませんでした。離婚家庭、貧困、親の虐待、不純異性交遊、シンナー吸引、リストカット、精神薬過剰摂取など「非行」のオンパレードで家庭に居場所がないだけに、生徒たちには生活丸ごと目配りする場面も珍しくありませんでした。やがて親たちの中にも理解者が現れ、全国大会で応援する姿が見られました。勉強は苦手でも学校に自分たちの居場所があることで赤点だった生徒が減り、和太鼓部は就職率100%となりました。喘息だった生徒は和太鼓部があったお陰で5年掛かって同校を卒業。一般に留年組は就職が困難とされる中、我慢強さが評価され地元企業に就職できました。本人も「自分が必要とされている」と自信を持ち、後輩たちに良い影響を与えました。

そうした下地を経て5年後の全国大会で準優勝(2位)

の榮譽に輝きます。「お囃子が観客の中に入ってくるような凄い演奏で、誰もミスがなかった。やったなあ、と思った瞬間、その気迫に涙が出た」と島田さん。プロの審査員も絶賛したほどでした。2位までは東京・国立劇場に出演することができ、「この子らのお陰でここに立てた」と興奮し、「感無量だった」と当時を回顧してくれました。

潮騒で実践している 回復の動機付けと一致

島田さんは地元でコンビナートの保守点検の忙しい仕事に従事しながらも、この7年間は休日返上で懸命に和太鼓部の指導に当たりました。その甲斐あって生徒は全国屈指の実力を付け、全国大会上位入賞の常連校との評価が固まり、同校の知名度アップや活性化に大きく貢献しました。しかし、その一方で学校側との軋轢も生まれました。「先生は勝手に来るけど、僕たちは土日が休めない」と主張する教師とぶつかり、その教師は「先生を辞める」とまで言い出し、島田さんとの対立は決定的となったのです。こうなると外部講師の立場は弱く、島田さんは前年に生徒や父母に惜しまれながら同校を去りました。

この後も講演で、島田さんは自分が関わった2つの体験事例のエピソードを紹介してくれました。離婚家庭で父の下で育ち、母に会いたいがために太鼓に打ち込んだ生徒が、全国大会での活躍で両親が関係を修復し、悲願の再開を果たしたケースと、心に深い傷を持ちリストカットと精神薬依存の生徒が鹿島灘太鼓と出会い、熱中することで人生の新たな目標を見つけた事例です。

もちろん厳しい練習に付いていけず、やめた生徒もいたようですが、この2例からだけでも、つまづいた生徒たちの心を本当に癒すのは、頭でっかちの教師の指導ではなく、体ごと自分にぶつかってくれる友人や大人の存在であること。さらに熱中して打ち込める目標を見出してやること。そして安心安全に活動できる居場所を確保してやること。そこで苦しくても地道に努力すればいつかは花開くこと。やるからには「日本一」を目指すこと一を指導の柱に据えていることを示唆してくれました。

奇しくもこれらは、ダルクや潮騒 JTC で実践している回復の動機付けと一致します。最後に島田さんは「潮騒に対する外からの視線は厳しいかもしれませんが、私が鹿島灘高校で示したように、太鼓を通して悪いイメージは払しょくできます。私自身、みなさんから教えられることが多く、太鼓の指導は自分のためにもなっています。どうか一緒に今年12月の潮騒フォーラムを盛り上げましょう」との熱いメッセージで講演を締め括りました。



島田正之（しまだ・まさゆき）

昭和32年、神栖市波崎(旧波崎町)生まれ。子供の頃から祭り好きで、小学校から和太鼓を始める。平成4年にボランティアの和太鼓集団「鹿島灘太鼓」を立ち上げ、実力をつける。平成16年に県立鹿島灘高校(鹿嶋市志崎)が組織改編で3部制の単位制高校に移行すると、特色ある学校づくりのために校長より請われ、新設された和太鼓部の外部講師に就任、7年間務める。この間、高校総文祭(文化部のインターハイ)で全国3位を2回、2位を1回(国立劇場にも出演)、関東大会で2回連続金賞など優れた実績を残す。その後は同講師を辞し、妻の京子さんと共に地元や近隣の要請に応じて各種イベントや祭り、老人福祉施設への慰問など幅広く演奏活動。薫陶を受けた若者たちが成長し、ハイレベルの実力を誇る。強豪が集う来年7月の国宝松本城祭り(長野県松本市)に参加が決定している。潮騒 JTC では、今年から島田さん夫妻の熱心な指導を受けている。

島田先生のお話から自分の課題を自覚

先日、いつも太鼓でお世話になっている島田先生の貴重なお話を聞くことができました。お話の中でも印象に残ったことは、何かに挑む時は、他人に負けないくらい練習や訓練をし、自信を持って挑むこと。また、目標を作って行動をしなきゃだめだという点です。当たり前のようなことに聞こえるかもしれませんが、今の私には、この2つをやるのが難しく、とても自分の中で欠けている点だと思います。これからは、将来どうなりたいのか、それを実現するためには何をすれば良いのか、しっかりとした目標を見つけて努力をして生きていきたいと思いました。また就労するために、太鼓の練習や施設での生活で我慢強さを身につけたいと思います。島田先生のお話が聞けてとても自分にとって良い勉強になりました。島田先生がお仕事の時間を割いて私たちのためにお話に来てくださったことに感謝しております。(あやめ)



しおさい 農業自然隊 ミニフォーラム

「農業は世界を変える。さあ、一緒に土と遊ぼう」



カツミ

農業にはマニュアルはないよ。
その土地に合った
やり方が一番！



カンタ

リーダー、もっと農場に
来てくれよ。
野菜の成長は早いんだから



タカイチ

運転手兼支援農家の
手伝いをしています。
毎日、叱られています



マッシー

農業班に参加しています。
毎日、青パパイアの成長が
楽しみです



ジュン

農業は子育てと一緒に。
放任主義ではダメ、
過保護でもダメなんだ

潮騒ファイザープロジェクトの中核をなす潮騒農業の取り組みについて報告する潮騒JTCの「潮騒農業ミニフォーラム」が7月18日、鹿嶋市まちづくり市民センター講座室であり、潮騒農業自然隊メンバーらが農業の魅力などについて体験発表しました。

初めにリーダーのヒトシさんがスライド映像を使い、今年1月から6月までの半年間の取り組み概要を説明。引き続き農業隊主力メンバーのカンタ、ジュン、カツミさんらが農業への思いについて熱く語りました。この後、メンバー全員が正面に並び、潮騒農業の在り方や課題などについて短いながらもトークセッションし、会場の入寮者約70人から大きな拍手を受けました。

ファイザー製薬による助成最終年の今年は、水田と畑の耕作面積をさらに規模拡大したほか、販売体制も強化しており、上半期の取り組みは比較的順調に推移していることが改めて報告されました。それだけに下半期の収穫が楽しみです。



再挑戦の青パパイア栽培は順調

潮騒農業は地元支援者の協力と専業農業などの指導を受け、助成1年目に自力で荒地を開墾して猿田農場を創出し、2年目には青塚農場を加えて畑地整備し、これとは別に北浦湖岸に潮騒水田2面を手掛けました。2年連続して豊作だった水稲（コシヒカリ）に加え、サツマイモやジャガイモ、ニンジン、夏野菜等を収穫したほか、戦略品目として茨城県が露地栽培北限の未完熟青パパイアを栽培しました。青パパイアは3割程度の収穫でしたが、今年は新たに借り受けた地藏院農場を専用のパパイア畑にして再挑戦、順調に育っています。

スリップや途中退寮などで人員の固定化が難しかった農業自然隊ですが、核となるメンバーは4～5人ながら新たな参加者もあります。このため今年は海岸部に専用のシェアハウスを確保し、自力で補修工事をしました。ここには隣接する農地（畑）とビニールハウスがあり、これも整備を進めています。また鹿島ハイツ下の水田も作付面積を増やし、米の施設内完全自家消費が可能となりつつあります。



潮騒農業を就労への動機付けに

販売面では地元JAへの出荷ができるようになったのと、地元支援農家の尽力でカシマサッカースタジアム横のJAしおさい鹿嶋農産物直売所での販売も可能となり、既に一定の顧客がリピーターとなるなど支持を得ています。今年は加工品にもチャレンジする計画で、専門家の助言指導を受けて干し芋づくりを試行的に行う方針で、これに相応しい品種のサツマイモ栽培に踏み切りました。

私たちは助成2年間の農業実践で、農業を仕事として請け負う直接的な雇用確保や農家として自立する就農は難しいとしても、自然と向かい合う農業が依存症者の回復に側面的ながらも好結果をもたらすことを実感しています。識者の提言や先輩ダルクなどから刺激を受け、「半就労・半福祉」の形で潮騒農業を就労への動機付けとして役立てる今回のプロジェクトが、潮騒農業という一つの形になりつつある手ごたえを得ています。台所事情は苦しいですが、施設としてもトラクターなど機械化に力を入れ、支援を強化しています。



高齢入寮者の頑張りに目を見張る

その結果、潮騒につながるまでヤクザな生き方しかしなかった農業隊メンバーが、まるで我が子を慈しむように各種野菜を優しく育てる姿は感動的ですからあります。今年はミーティングや既存の回復プログラムに乗れない重複障害を持つメンバーや高齢入寮者にも希望の光が見え始めました。彼らに青塚農場で新たに増やした農地の一定区画を割り当て、ここを自由に使って好きな農作物をつくる試みをしています。「農業班」としてメンバーを募ったところ、デイケアで一日じゅう滞留がちだった人たちが手を上げ、特に高齢者の皆さんの頑張りには目を見張るものがあります。農業隊も顔負けの熱心な取り組みをしており、成果が楽しみです。潮騒農業は試行錯誤を経て一つの形になりつつあり、新たな地域完結型施設へのビジョンを目指す潮騒JTCの中心的な受け皿として、さらに内容を充実させていきます。(か)

潮騒アディクションセミナー

アルコールやギャンブルの仲間たちが熱いメッセージ



外部の自助グループ関係者から貴重なメッセージを受けるオープンイベント「潮騒アディクションセミナー」が6月29日、鹿嶋市まちづくり市民センターで開かれ、潮騒の入寮者約70人がスピーカーの話に耳を傾けました。このイベントは、潮騒JTCの支援者でアルコール依存症の回復者である恵一朗さんの尽力により数カ月に1度開かれているものです。リハビリ施設への入所ではなく、地域社会で生活するアルコール、薬物、ギャンブル依存症の仲間たちから毎回貴重なメッセージが届けられています。

今回は千葉県や埼玉県内の自助グループに参加しているアルコールやギャンブル依存症の仲間たちがスピーカーを務めてくれました。パチンコ依存の問題を抱える女性は「過去には1日で1カ月分の生活費をパチンコで浪費したことがあり、暮れになると“どうしたら正月を迎えられるだろう”と悩んだ。まだまだ回復途上だが、仲間たちの存在に支えられている」と話してくれました。

同じギャンブル依存症の男性は「29歳からギャンブルにはまり、17年にわたり依存症に苦しんだ。自助グループにつながったことで、今は1年4カ月ギャンブルが止まっている」と話し、別な男性は「48歳で自助グループにつながったが、28年どっぷり依存した。新婚旅行でカジノにいく始末で、その後は借金苦でどん底を味わった。やっと自分の問題と向き合うことができ、この気づきが解決の道につながった。自分は仲間と自助グループのおかげで助かった」と話してくれました。

この日は冒頭で、潮騒JTC支援者の恵一朗さんが先日亡くなったアルコール依存症の高齢仲間について触れ、「60歳を超えてあちこちに足を運んでメッセージを運んでくれた。“40年飲んだくれた俺ができるんだよ”“人生はどこからでもやり直せるんだよ”と教えてくれた」

と追悼しました。潮騒の同セミナーでも入寮者に熱いメッセージをくれたメンバーでした。合掌。

■アルコールもギャンブルも最後はすべてを失う

GA/AAメンバーのオープンメッセージが潮騒のプログラムの一環として開かれました。今回のゲストスピーカーは、主に千葉地区のメンバーさんで司会はG・Aのハルさんに務めて頂き、テーマは「どん底からの回復」でした。自分に正直になり、自分と向き合えば、回復の希望につながるという熱いメッセージでした。ギャンブルによって生活のあらゆる事に問題が持ち上がり、最後は全てを失っていく様や、アルコールで精神的にも身体的にもボロボロになっていく様を、文字通り正直に話して下さいました。アルコールもギャンブルも共通点は、最後はすべてを失うという事に尽きる、と自分ながらそう感じ、怖いなど実感しました。(コバ)

■「これがメッセージなんだ！」と改めて確認

一度は社会復帰したものの、依存症回復の難しさを我が身を持って体現する形となり、アルコール治療専門病院を経て久しぶりに潮騒JTCに舞い戻りました。潮騒とは不思議な縁を感じます。そんな中、今回施設イベントでこれも久しぶりに仲間たちのメッセージを聴きました。メッセンジャーの皆さんに会うのも久しぶりでした。相変わらず仲間のために活動されていることに、喜びと感動を受けました。改めて「凄いなあ」と思いました。

そのメッセージですが、みんなの熱い思いが心の奥にとっても重く響きました。もちろん私も同じ体験を過去にしてきたからです。でも、それに真正面から向き合い、偽りなく正直に話してくれました。みんな周りを巻き込みながら、恥をさらし(その時は恥とも思わないわけですが…)崩落していく。その体験は、自分の過去と照らし合わせれば決して笑えない話です。悲しみや憎しみ、そして深い後悔をもって振り返る話ばかりですが、メッセンジャーの皆さんはどこか突き抜けた明るさがあり、会場の笑いを誘ってくれました。終わってみれば安堵と勇気、やる気をもたらした思いです。

「これがメッセージなんだ！」と改めて確認しました。これもメッセンジャーの回復を目の当たりにしたからでしょう。やはり仲間の回復と自分の回復は対ですね。これからの潮騒生活は、これを念頭に置いて回復に励んでいきます。(ハル改めエス)

川崎ダルク10周年フォーラムにエイサーの応援で参加

潮騒JTCが日頃からお世話になっている先輩施設、川崎ダルクが節目となる開設10周年を迎え、6月27日に川崎市高津区溝口にある高津市民館大ホールで「川崎ダルク10周年記念フォーラム」があり、潮騒からもエイサー隊らが参加して節目となる記念フォーラムを盛り上げました。フォーラムのテーマは「リカバリーなう」で東横恵愛病院院長の石垣達也氏や日本ダルク代表の近藤恒夫氏が講演し、仲間の体験談、川崎ダルク活動報告、エイサー演舞など盛りだくさんの内容でした。以下は参加したメンバーの感想です。

●川崎ダルクの仲間達に感謝の気持ちでいっぱい

今回、川崎ダルクフォーラムでエイサー(琉球太鼓)の応援を頼まれ、自分も参加しました。今思えば、昨年8月下旬から川崎ダルクの仲間たちにエイサーを覚えてもらい、本当に良かったと思います。あれから自分たちで練習を続けて約10ヶ月、まさか自分たちが応援に呼ばれるとは思わなかっただけに、とても嬉しかったです。最初は緊張したけれど、笑顔で楽しく太鼓を叩くことが出来ました。呼んでくれた川崎ダルクの仲間達に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも練習を続けて、川崎ダルクやよそのダルクに負けないくらいの腕を上げ「ナンバー1」を目指します。(リョフ)

●潮騒の応援隊も活躍し、エイサーのファンになった

フォーラムでは講師の方々から色々な話を聞いて共感する事も多々あったのですが、やはり川崎ダルクのフォーラムと言えば恒例の琉球太鼓。毎年毎年ゴルゴさんの、「ヤク中、出て来いや〜」の一言で始まるエイサーの演舞です。今回は「ヤク中〜」の掛け声はなかったけれど、工夫を凝らした太鼓の演舞に感激しました。潮騒の仲間たちの応援隊も負けず劣らずの活躍で、改めてエイサーのファンになった次第です。(サカ)



太鼓演奏が心に響いた茨城ダルク22周年フォーラム

7月13日に結城市のアクロスで開かれた「茨城ダルク22周年フォーラム」に行ってきました。自分自身、茨城ダルクのフォーラムには3回目の参加です。国内で4番目にできたダルクとして歴史を刻んでいるだけに、毎年各地から多くの仲間たちが集まるのに加え、迫力ある太鼓演奏が披露されるので、自分には楽しみなダルクフォーラムの一つです。当日は会場に着くと既に沢山の仲間が集まっていて、席に着くなりフォーラムが始まりました。午前の部は来賓挨拶、幼稚園児による和太鼓演奏(茨城ダルクの和太鼓はこの幼稚園との縁で生まれたそうです)、仲間の話、富山ダルクの「海岸組」による勇壮な和太鼓演奏と続きました。午後の部は女性シェルターのエイサー演舞、茨城県立こころの医療センター職員による発表、日本ダルクの近藤恒夫さんの講話、最後に茨城ダルク「喜組」による和太鼓演奏を聴いて帰りました。

自分もエイサーをやっているので太鼓演奏は心に響き渡りとても良かったです。特に茨城ダルクのスライド映像を使った導入部の演出は、潮騒フォーラムにも応用できそうです。我がが回復の星、近藤さんの話は毎回聞く度に味わい深く、ところどころにユーモアを感じさせてくれるので面白くて笑ってしまいました。意義のあるフォーラムでした。(エソ)



受刑者からの手紙

“自分を変える”を目標に性格も少し変わった？

…ところで出所時に着る服の件ですが、前の工場なら班長もやっていたし、自分の服のサイズ位測るのは、どうにでもなったのですが…。以前ならば駄目でも一応言ってみたり聞いたりしましたが、最近では性格が少し変わったのか、駄目だろうと思う事は、あまり言ったり聞いたりしなくなってきました。色々と言われたり、値打ちを付けられるのが嫌な為です。以前は何とも思わなかったのですが、今は言われたくないから、言われぬようにする。当たり前には思いますが…。でもこれは言わなくてはと思う時は引きませんが、でもだんだんと面倒だなと思うようになってきています。

以前は引くどころか、無理な事を押し通すのが当たり前だと考えていました。この受刑生活で“自分を変える”を目標にしてきて、性格も少しずつ変わってきた？と思っています。でも出所間近なためか、あるいはストレスが溜まっているためか、最近ではイラっとする事が増えています。しかし、これではまずいと感情を抑え込んでいます。もしかして、これでは自分は何も変わっていないのか？と不安になる事もあります。

このように、私はまだまだなので、出所後は何かとご指導の程宜しくお願い致します。でも、この約2年半、自分を変えようと自分なりに努力をして来ました。少しは成長した？と思っています。まともませんが、出所の日を楽しみにしています。

（北海道 I・K）

母の生のある間に薬と縁を切った自分を見せたい

前回は失礼な質問してしまい大変申し訳ありませんでした。それなのに答えて頂き本当にありがとうございます。この度潮騒さんの方でお世話になりたく思い、改めて宜しくお願い致します。そこで引受人の件ですが、そちらにお願いしたく思っております。私の方では一応施設長さんの栗原豊さんの名で、アンケート等を提出させて頂きましたので、宜しくお願い致します。

私も本当に薬と縁を切りたく思っています。今回1年半止まっていたのですが、つい友人からの誘いで手を出してしまい、職場も職場の人たちも、ましてや80過ぎの母まで裏切ってしまう、自分でも本当に嫌になる位です。この様に信用を失くし、友を失くし、母を失望させ、今では手紙を書いても返事も貰えない状態になってしまいました。友達も私の周りから居なくなりました。

こんな私でも、この年齢からでも、やり直す事が出来るのでしょうか。出来るなら薬と縁を切って自分をもう一度、母の生のある間に見せてやりたいと思っています。私自身上手に人と接する事が出来ず、心配もあります。この様な人間でも受け入れて頂けるなら是非お願いします。

（北海道 M・K）

覚せい剤で捕まったアスカは今何を考えているのか

私は何事もなく平穩に務めています。こちらは雨も少なく、梅雨時のジメジメ感もあまりなく、比較的過ごしやすいです。ただ夏の暑さが厳しくなる予報を聞いて涙です。うるさいセミの声と、蚊の羽音に悩まされる日を想像すると暗くなります。先の手紙で、入所時にはお金の心配がいらぬとの事で安心しました。恥ずかしいですが、内妻とは服役してから別れたので、私物はすべて無くなりました。だから、本当に感謝しています。それと、キクさんが返事を書いてくれている事は感謝で一杯です。忙しいとは思いますが、これからもよろしく願います。

社会は、薬物の事件、事故の話が話題になっていますね。アスカが覚せい剤で捕まり先日釈放になったようですが、アスカは今何を考えているのか、一部で病院に入ったと言っただけ、どうなのか？保釈されて頭下げているとき、手を固く結んでいたのが印象的でした。それにしても脱法ハーブを使用して、車の事故を起こし人を死なせてしまう事件が多過ぎますね。一瞬で人の命を奪い、自分の人生も棒に振る。それが解るのに減らないのはやっぱり薬の怖さですね。

（福岡県 F・S）

まだまだ回復実績が少ないこともあって各地の先輩ダルクが実施している刑務所メッセージは実現していませんが、潮騒JTCの特徴ある活動に受刑者との積極的なコミュニケーションを図る文通があります。他のダルクでも行われているかもしれませんが、センター長の私や担当者が頂いた手紙には必ず目を通して見ます。文章のうまい下手にかかわらず受刑者の皆さんの真摯な熱い思いは依存症回復に向けた道程に繋がるものです。堀の中の貴重なメッセージは施設にいる者にとっても自分たちを映す鏡です。（ユタカ）

これが当所から栗原様に出す最後の手紙になると思う

私の方は委員面接（仮釈放）も終わり今は出所の日を待つだけの日々を過ごしております。恐らくこの手紙が当所から栗原様に書いて出す最後の手紙になるのではないかと考えています。今は一日も早く社会復帰をして栗原様の元で頑張っていく事だけを念頭に置いて毎日生活いたしております。今後とも何卒宜しく願ひ申し上げます。

これからは恐らく薬物依存症という病気との厳しい闘いが待っている事と思いますが、二度と同じ過ちを繰り返さないという、今の私のこの強い気持ちを持続させ、何とかクリーンな生活が送って行けるように、私なりに頑張っていく所存であります。今後再び薬物に手を染めたなら、私の人生はその時点で終わるくらいの覚悟を持って臨むつもりであります。

（北海道 H・S）

判決が下り覚醒剤を止めたい気持ちが一層強く

先日判決が下され、懲役1年8月未決通算40日という結果になりました。これも栗原様の情状証人のお陰です。心より感謝しております。誠に有難うございました。覚醒剤を止めたいと云う気持ちがより一層強くなりました。これから服役しますが、服役中もお手紙等でご指導の程、何卒宜しく願ひ申し上げます。これから苦しい事、辛い事等、色々な壁にぶつかるとは思いますが、その都度ご相談させて下さい。人生の大先輩として色々なご経験をされていると思います。私も必ず覚醒剤を止めますので、どうか宜しく願ひ致します。どこの刑務所に移送になるか分かりませんが、移送後にお便り致します。

（東京都 I・S）

私に文章の才覚がないため誤解を与えたか心配

頂戴した便りに「どこに帰っても薬にさえ手を出さなければ何とかなる」とありました。本当にその通りですね。堀に囲まれる今はそう思えるのですが、社会に戻って後も、その気持ちを維持できるのか自信がありません。そこで「一人ではなかなか難しい」に繋がるのだと痛感致しました。社会に於いて実生活を送りながら、断薬と真摯に向き合う栗原様をはじめお便りをくださる菊地様のこのお言葉を励みにして、残刑を無事故で務め上げたいと思います。また前回の手紙にて伺いました「断薬プログラムの期間」につきまして御回答頂き有り難うございます。人により期間は異なるのですが、1〜2年を要するのでしたら、私などはどの位の時間を要するのか判らず、不安になるのは期間が長くなる程に掛かる入所費用をどうしたら良いのか、と云うことです。（中略）

話は転じますが、お便りの中に「どこに帰っても」と記述されているところが気になり、更には「どこに帰っても努力してください」とありましたので、私が綴りました前回の手紙に、何か至らない記述があったのかとも思い、誤解をさせていただきましたのではいけないので、加筆させていただきます。何分、私に文章で話をお伝えする才覚がないために、満期釈放となってしまったら潮騒ジョブトレーニングセンターには行かないかの様な受け取られ方をされておりましたらお詫び致します。「迎えには行きます」と御心配下さいましたことに私が遠慮しましたことを、詳しく説明致しませんでしたので、改めて綴ります。仮釈放でしたら引き受けとして迎えて頂けると解釈し、観察所へその足で向かう規則なのだ伺いましたので、ご迷惑をお掛けいたしますが、願ひ申し上げます。

そこで満期釈放となってしまった際ですが、その日の内に本籍地の転出をし、住所地の抹消を解除しなくては、免許の更新に支障をきたすため、伯父に同行してくれる様願ひしてありましたので、迎えを遠慮させて頂きました。こうして出所後に直接行かず、他のことをしていると同刑の出所後と同じ過ちを踏まぬ様、伯父に同行を求め、薬に手を染めることの無い様、意思を固く持っているつもりです。先ずは第一にお電話致しますので、自分の言葉で気持ちを伝えさせて頂きたいと考えて居ります。しかし、仮釈をあくまで有りません。これまで努力して来ましたので、これからも引き続き励みたいと思います。

（北海道 M・K）

しおさい俳壇

7月のお題 **夏祭り**

選者 **桐本石見**

わが俳句人生の歩み・No.9

センター長 **栗原豊**

新たに鹿嶋市で設立した潮騒JTCの前身、旧「鹿嶋潮騒ダルク」は産みの苦しみを経て、どうにかこうにか施設として回り出した。関係が切れかかった神栖俳句会とも、桐本会長や会員の皆さんの温情ある配慮で引き続き参加が許された。毎年発行される句集にも私の作品10数種が掲載され、とても励みになった。忙しさを例会には不参加の時が多かったが、地域の人たちとつながっているという確信は、私の大きな支えだった。

施設らしくなったとはいっても、居を構えたのは市役所近くのボロアパート。ポーカージョイ屋だった建物だけに、倉庫の中でミーティングをしている感じだった。しかも、そのミーティングが疎かになってスリップする者が相次いだことから、私は早くここを脱出し、落ち着いて仲間たちが自分の問題と向き合い、回復プログラムに取り組めるようにしたいと焦った。そのため私の仕事は、もっと施設らしい物件を探し、新たな拠点とすることだったが、いかんせん先立つもの

がなかった。実績のない日陰者の無名ダルクに献金が寄せられることはなく、何とか活動経費が生み出せるようにと入寮者が増えていくことに心血を注いだ。そうした中、千葉県鎌ヶ谷市のアルコール依存症の専門病院からアルコールの仲間たちがつながってきた。これは私の経験から思うことだが、俳句作りではアル中の人たちが意外な力を発揮する。彼らの多くは社会で苦労して働いてきた経緯があり、その気になれば生き様そのものが作品の素材となる。4、50代になってアルコール依存症を発症し、そこからは「どん底」への転落人生だったが、その歩みも困難であればあるほど俳句作りでは財産となる。でもヤク中だと、そうはいかない。中学、高校時代からの薬物使用により脳や身体に大きなダメージを受けた人たちが多く、彼らには言葉へのこだわりや文芸的な表現行為よりも、目の前にある自然と触れ合いながら農作物の成長に生きがいを見出す方向性が合っているように思う。(次号につづく)

山車は山の神の代わりで古事記にも大国主を祀る青葉山として記されているが、時代の移りに今の様な形式になり勇壮に山車回しなどが行われる。今では半被など着ているのが多いが、以前はさらし禪にねじり鉢巻の若者が威勢よく参加した。岸和田の壇尻回しは怪我人が出るほど有名。夏祭らしい句。

かっちゃん

若衆の
さらし禪
山車回し



平安時代には祭は京都の葵祭を夏祭と云ったが、夏は疫病や虫害、水害の多い時期なのでこれらを神の力で抑えるために祈りを込めて祀る様になり今の祭になった。その神輿をもっと見たいと子供にせがまれての肩車、微笑ましく懐かしい句です。

コバ

夏祭り
神輿見たいと
肩車



今月の秀逸句

オノ
孫たちが故郷に帰る夏祭

日本では盆正月には大渋滞になるほどに帰省があるがこれも一つの風物詩と云える。それだけに地方から都会に出ている訳でもあり私の郷は日本一過疎化県でもある。しかし老いの身には孫の顔を見るのが何よりの土産かも。実感の句です。

マツシー

夏祭エイサーアイサ那覇の街

原句は少し変えましたが、これで沖繩のエイサー踊りの詠になります。エイサーは昔の沖繩の浄土宗の念仏歌のことでそれが踊りになって今に伝わり、現代風に変わった、鼓を腰に打ちながらの練りは壮観。

きこ

花火より屋台気になる子供達

この水郷や利根川沿いには花火大会も多く夏の名物でもある、その花火見物も子供等には始めの間は綺麗だなどと歓声をあげるがその内に屋台の食べ物に気になる如何にも子供の好きそうな物もある。微笑ましい句です。

鬼

浴衣着のおくれ毛愛し夏祭り

女性の着姿はいつでも綺麗だが浴衣姿は特別に美しく憧れでもある、一時はその姿も減ったが最近では外国人の観光用にも宣伝している。夏祭りなどで少しおくれ毛の見える娘さんなどは可愛く愛しく見えて艶冶(えんや)の句です。

ユタカ

千鳥足酔ふてもみたし夏まつり

酒を飲むのは夏だけではないが夏のビールはやはり美味しい、仕事や遊びに大汗を流した後の一杯は身に沁みるが、それだけにまた飲みすぎることに悩む。作者の立場経験からは願望の一句かも知れない。



佳作

夏祭り女神輿が人目引く ヒロ

女房の浴衣姿にほんのりと 長吉

幼子が母の手をとり夏祭 ポチ

次々の花火仰ぎ見スリ注意 みなこ

夏祭り退屈ですか猫に聞く 安倍

夏祭り提灯見ては里思ふ あやめ

お揃ひの浴衣姿や夏祭 レイ子

夏祭り花火も上る利根の空 ヨー

夏祭り風鈴の音に一人かな イルカ

母さんと金魚掬いの夜店の灯 しま

夏祭り弾け弾けて子供かな ここ

夏祭り子等が駆け行く夢の中 安田

受刑者の句

炎天を来る真白き封書かな

章三郎

炎天は文字どうり大地も焼ける様な真夏の太陽で中国の五行思想の火を司る夏の神でもある。その炎天下に白の封書は清々しくもあり何か良い知らせとも思える句です。

罪人は善人にあらず草むしる

章三郎

人類は万物の霊長と云われ億万の文明科学を生んだが解決途上にある一つが罪でもある、親も学校の先生も僧も罪を犯せとは教えないが人は罪を犯す。医療科学が進歩しても病気が絶えぬ様に罪もまた人類の永久課題かも知れない。草むしるに俳諧の哀れを込めた一句です。

どっこい私も生きてます～我が回復記～ 「アディクトのトムです」 No.6

今はただ自分にできることを地道にするしかない

えーと、トム“非回復記”も今回が最後となりました。度重なるアルコールにまつわるトラブルでついには職を失い、少しずつ社会での居場所を失っていきました。そして40歳の声を聞く頃にはアルコール病棟と実家のパソコンの前だけが自分の居場所でした。5回の入退院の後、みのわマックに繋がるようになります。初めて「このままではいけない」と感じたのかなと、今振り返ると思います。

「みのわ」では一日3回のプログラムの中で、今は自分の宝物となっている多くの仲間と知り会えました。あのとき意味もよく分からずに聞いていたこと、教えてもらったことが、今になって骨身にしみえています。でも、まだ気づいてないことも多いと思います。あの頃と今の違って、自分で気づくのは仲間の中で「パンツを脱いでお風呂に入れるようになった」ことかな。でも、気をつけていないと「パンツをはいたまま」になってしまうから、それほど変わってないのかな…。

なぜ、あえて“非回復記”なのかというと、今自分の生活の場となっている下津の本部施設で第1ステップからやり直しをしているからです。お金のことを含めた生き方が新しくなっていないから、ただアルコールを飲まないだけの状態にいるにすぎないのが今の自分です。

「みのわ」での最後の時期、そしてスリップして山谷マック（ワンステップ）につながった頃と今は似ています。自分の不甲斐なさにあきれてしまうことも多いけれど、今はただ自分にできることを地道にするしかありません。ミーティングと、自分にとって多くの先行く仲間の声を忘れないようにして生きていこうと思います。自分が狂っていることを忘れずに、12ステップの1だけでも見つめていこうと思います。今自分の周りで起きていることは、すべてがメッセージです。大事にしたいと思います。トムの回復記はこれで終わります。本当に回復したらまた書きます。ではでは、その日まで、さようなら。(トム) ～終わり

7月のバースデイ

長五郎



還暦を過ぎて早1年、61歳になりました。飲む・打つ・買うは男の美学。

金ちゃん



これからもクリーンを続けていきたいです。

マッシー



農作業を頑張って、体力をつけ、充実した日々を過ごし、これからの生活を過ごしていけるように少しずつ前に進んでいきたい。

フミ



お酒を断ち続け誠意をもって夏の日の中で作業をして、一日一日断酒で日々生活しています。今日も断酒で頑張ります。

ジン



夏も近づくと八十八夜の真っ最中の今日この頃。

ヒーサン



茨城県に来て一年を過ぎ、この町の探索に興味が出てきています。

ツカ



これからです。



7月の行事予定

- 13・19日 秋元病院メッセージ
- 14日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 13日 茨城ダルク 22 周年フォーラム
- 17・24・31日 R.D プログラム
- 18日 ファイザープロジェクトミニフォーラム
- 20日 とちぎアディクションフォーラム
- 27日 潮騒家族会
- 28日 誕生会
- 31日 映画会

8月の行事予定

- 5日 たかおざきデイサービス琉球演舞
- 7・14日 R.D プログラム
- 7日 俳句会
- 10・16日 秋元病院メッセージ
- 11日 海の集い

編集後記

「なあ～んだ。また自慢話かよ」「人前で手柄のようにしゃべって、いい気持ちなんだろうな」。事情があって施設に入らず(入れず?)、地域で回復活動を続けるアディクトの皆さんから貴重なメッセージが届けられる、潮騒アディクションセミナー。昼食後だけに睡魔が誘う。例によって居眠り組もいる。でも、この小声でのおしゃべりには悲しくなった。同時に依存症という病根の深さも感じた。心がすさみ、ひねくれて、すっかり人格を歪ませている。人には大なり小なり屈折した心情はつきものだが、施設が提供する回復プログラムが目指すのは、そんな自分を何とか変えていくビジョンであるはずだ。もちろん平坦な道のりではない。「今日一日」の地道な積み重ねが、それを可能とする。依存症の回復の取り組みにゴールはない。第一義的には薬やアルコール、ギャンブルを止め続

献金を頂いた方 (7月15日現在)

- ・医療法人十全会 聖明病院 院長 近藤直樹 様
- ・白井美代子 様 ・小岩井商事(株) 様
- ・上田隆靖 様 ・内堀高良 様 ・渡辺洋子 様
- ・イグナチオ教会 マヌエル エルナンデス 様

献品を頂いた方 (7月15日現在)

- ・大類末吉 様 ・佐藤寛 様 ・落合則夫 様
- ・アトム電気 様 ・イルポートこぼり 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。
※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

けることだが、それだけではなく自分を人間として成長させることが課題となる。だからこそ12ステップには、日本人の感覚では分かりにくい「ハイパーパワー」が登場する▼仏教でいえば「悟り」に近い境地だろうか。身近にある表現で象徴化すれば「人を信じられる」「自分に謙虚になる」「現実を素直に受け入れる」「心を空にして幸せを実感できる」などの状態に近い。みんなが同じような心持ちになる必要はないが、自分の弱さを認められれば、その人は回復の確かな道程にあると言える。その意味で、12ステップと自助グループ、そして仲間を信じ、地域社会という悪戦の荒野で日々依存症の困難に立ち向かっている外部メッセンジャーの話は、依存症の当事者がきちんと聞く耳を持てるなら無償の「宝の山」なのだと思える。(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2014年7月号

Contents

- P② 依存症である限り支援を惜しまない
- P③ ファイザープロジェクト推進委員会
- P④ ファイザープロジェクト就労支援実践講座
太鼓指導に情熱を注ぐ島田正之さん
「依存症回復に向けた動機付けで貴重なヒント」
- P⑥ しろさい農業自然隊ミニフォーラム
- P⑧ 潮騒アディクションセミナー
アルコールやギャンブルの仲間たちが熱いメッセージ
- P⑨ 川崎ダルク 10 周年フォーラムにエイサーの応援で参加
・太鼓演奏が心に響いた茨城ダルク 22 周年フォーラム
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しろさい俳壇 7月「夏祭り」
- P⑭ どっこい私も生きてます! ～我が回復記～

編集・発行:

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム(中施設)
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



潮騒農業特集

